

is 通信



ソニー生命保険株式会社 山形支社 (Vol.80)
 ライフプランナー 伊豆田 弘樹

2018年4月号

SL17-4230-0150

〒990-0039 山形県山形市香澄町2-2-31 カーニープレイス山形6F
 tel 023-615-0761 fax 023-615-0762 携帯 080-1834-7528
 E-mail:hiroki6mcp_izuta@sonylife.co.jp
 URL:https://cs.sonylife.co.jp/L8FUS0



4月の記念日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
	新年度・エイプリルフール	国際こどもの本の日	日本橋開通記念日	あんぱんの日	清明	城の日・白の日	世界保健デー	タイヤの日	大仏の日	女性の日	ガッポースの日	世界宇宙飛行の日	決闘の日	オレンジデー	遺言の日	女子マラソンの日	土用の入り	よい歯の日	地図の日	穀雨	民族の日	良い夫婦の日	世界図書・著作権デー	植物学の日	初任給の日	よい風呂の日	哲学の日	ソウの日	昭和の日	振替休日

近況報告



「1月往ぬる(行く)、2月逃げる、3月去る。」とはよく言ったもので、いつの間にか桜が咲く頃となりました。日本では4月から新学期が始まりますが、実は明治初期は9月始まりだったそうです。4月始まりが一般化したのは明治後期だそうで、国の会計年度や徴兵令の変更などが影響しているといわれています。意外な歴史があったんですね。

私は今年で44歳になります。数字で見ると、なかなかの中年ですね(笑)。長女のキョウカさんは14歳、二女のユウカさんは5歳に(妻は秘密)。今年度は家族にトコトン関わって、濃密な1年間にしたいと思っています！

写真は3月12日の二女の誕生日パーティー。いちご大好き姉妹は、いちごだけ先に全て食べてしまったという…。

健康まめ知識

辛党にもあずき

「入園・入学式や就職のお祝いなどに赤飯を。」とお考えの方もいらっしゃることでしょう。赤飯は、元旦や節句などの特別な日にいただくだけでなく、近年はコンビニでおにぎりとして販売されているなど、手軽で腹持ちのいい食べ物として多くの人に好まれています。

歴史をひもとくと、もともと赤飯は赤米を蒸したものだそうですが、稲作技術の発展で白米が流通したことにより、赤い色付けのためにあずきが用いられるようになったという説があります。あずきには、赤ワインより多いともいわれるポリフェノールや、食物繊維・カリウム・ビタミンB1・鉄・サポニンなどが含まれ、栄養成分が豊富なことから庶民の間で広がり、現代につながっていると考えられています。

なんでも、あずき60グラムと水800ミリリットルを鍋に入れて、水の量が半分になるまで中火にかけるとできる『あずきの煎じ汁』は、二日酔いに良いのだそうです。歓迎会などでお酒を飲む機会も増えるこの季節の知恵としていかがでしょうか。

季節の歳時

八重桜



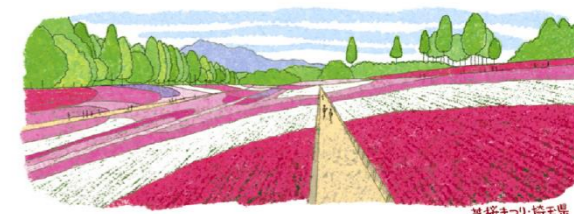
八重桜とは、桜の品種の一つと思われがちですが、花びらが重なって咲くいわゆる八重咲きになる桜の総称です。よく目にする代表的な品種は「カンザン」や「ヤエベニシダレ」など。

花卉の数が多いのが特徴ですが、なかには300枚に達するものもあるそうです。ソメイヨシノより1～2週間ほど遅れて開花します。

ご当地ネタ

「芝桜まつり」埼玉県

埼玉県秩父市にある「芝桜の丘」は、羊山丘陵の斜面を利用して、ピンクや白・紫色など9種・40万株以上の様々な色の芝桜が植栽されています。その広さは17,600平方メートルで、一面に咲き乱れる芝桜はまるで“花のパッチワーク”のよう。



丘全体が花の色に染まるのは例年4月中旬ごろからで、5月の初めが見ごろです。

豊かに生きるために

五風十雨(ごふうじゅうう)

生き生きと新しい生命が輝く季節です。この季節を表す言葉に『五風十雨』があります。これは5日に一度風が吹き、10日に一度雨が降る意。農作物にとり順調な気候を意味し、転じて世の中が平穏無事であるたとえに使われます。

四季のある日本は、季節や自然を表す言葉が豊かで、雨にも特別な思い入れがあり、雨に関して私たちは実に多彩な言葉を持っています。

たとえば、春雨が百穀を潤すことから名づけられた「穀雨(こくう)」、穀物の生長を促す喜ばしい雨を「瑞雨(ずいう)」、草木を潤し育てる「甘雨(かんう)」、早く咲いてと花をせきたてるように降る「催花雨(さいかう)」、花に降りそそぐ雨と赤い花の散る様子を雨にたとえる二通りの意味をもつ「紅雨(こうう)」等々。日本人が雨を身近に感じてきた証と言えるでしょう。

さて、近年私たちは、各地で「豪雨」に悩まされています。「五風十雨」とまでは言いませんが、もう少しでいいですから穏やかに降って欲しいと願うばかりです。

「あの日から、どう生きていますか？」

この原稿を書いているのは2018年3月13日。一昨日の3月11日で、東日本大震災から丸7年が過ぎたこととなります。

2011年3月11日午後2時46分。山形県鶴岡市にいた私は、当時6歳だった長女と車の中でその時を迎えました。あまりの揺れの大きさと長さに、鶴岡市が震源地なのでは？と思った程でした。幸いにも鶴岡市は停電にならなかった地域でしたので、その後普通に長女の歯の治療に赴き、歯医者の待合室でニュースを見ると、そこには現実とは到底思えないような光景が広がっていました。「何だこれは？」当時の私の正直な気持ちです。自分のよく知る風景が次々と津波に飲み込まれていく。とんでもないことが起こっていることだけは分かりました。

3日後に仙台市内へ物資を届けに行った時に、全ての信号が消えていたため交差点の度に左右確認しなければならなかったこと。石巻市内での復興作業をお手伝いさせていただいた時に、そのあまりの静けさに恐怖心がどんどん膨らんでいったこと。被災地の小学校の時計が、午後2時46分を指したまま止まってしまったこと。

「亡くなった方々のために。」などと大それたことを言うつもりはありません。ただ、自分が今こうして生きていることは決して当たり前のことではない。生きていることに感謝しなければならない。あの日から私の中では、「3・11で止まったままの時間」と「そこからの時間」という二つの時間が流れているような気がします。

皆さん、『あの時、どこで何をしていましたか？』。そして、『あの日から、どう生きていますか？』。